

(第6条関係)

事業計画書

事業名	科学教室事業
団体名	エデンの園科学教室

★貴団体が申請する事業について、お伺いします。

1. どのような地域課題を解決したいのか、その現状や背景などについても含めて記載してください。

○次代を担う子供達の科学離れが指摘され久しいですが、松戸市には ①山崎直子さんのような人材を輩出している、②首都圏のベッドタウンでニューファミリーが多く居住し、教育熱心な親が多い、③特徴的な教育をしている有名な学校が多い、④マブチモーターのような先端技術会社がある等により、子供達に科学に興味を持ってもらえる環境・土壌があると思います。

○然るに本地域(高塚新田)は市の中心部から距離があり、住民や子供が科学に親しむ事ができる施設が無く、それ故か 科学に親しむ機会が他地域に比し少ないようだとの意見を子供達の保護者から多く聞いています。

○一方、超高齢化社会を迎え、高齢者にも住み易い町づくりが求められていますが、それは若年層も一緒に当該地域に住んでいることが前提であり、世代を超えた交流があってこそ本当に生きた町だと言えると思います。大人の知恵が子供に伝わり、相互に尊重した交流が生まれ、子供は楽しく学び、大人もそれを見て微笑む…。現状ではなかなか機会がありませんが、大切な理想だと思っています。

○当団体のある松戸ニッセイエデンの園には、科学ボランティアの経験者や科学者、技術者が多数居住しており、科学・技術の基礎知識を教えることができます。当団体はこれを通じ、上記2つの地域課題【①子供に 科学に興味を持ってもらう ②世代間のコミュニケーションの創出】の解決に貢献したいと思っております。

2. それらの課題を解決することで、どのような地域にしたいのかを記載してください。

○科学に興味をもつ子供が沢山育ち、将来その中から技術立国日本を支えるような技術者や著名な科学者を輩出するような、文化レベルの高い地域になればいいと願っております。

○世代間交流が活発になされ、活気と優しさと潤いに溢れる大人にも子供にも住み心地の良い地域にもしたい所存です。

3. どのような地域課題の解決につながるのかが、分かるように事業内容を記載してください。

・事業内容

普段不思議に感じた事を科学的に判り易く具体例で示し、理解を深めてもらうために子供向け科学工作教室に取り組んでいきます。このことが [①子供に科学に興味を持ってもらう ②世代間のコミュニケーションの創出] の2つの地域課題の解決につながると考えます。その具体例を下記に記しました。

[科学教室で学んでもらう内容の一例]

- 光に関するもの : 万華鏡の制作、日光写真の撮影
- 電気に関するもの : モーターの制作、風力発電機制作、ラジオの製作
- 圧力に関するもの : 浮沈子の制作、マグデブルクの半球の実験、減圧の体験
- ITに関するもの : パソコンを使い、撮影写真の編集やビデオ化を体験

・想定されるスケジュール (事業内容について、具体的な取り組みを下記のとおり記載してください)

	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
4月～6月	春期エデンの園科学教室 「テーマ：光・色」 第1回 <u>水彩絵の具を調べてみよう</u> (どうして黒色に他の色が混じっているか) 第2回 <u>万華鏡で学ぶ</u> (光の屈折、反射について)	○当団体メンバー、外部招聘講師、父兄及び地域ボランティア、学童保育指導員、エデンの園職員により運営 ○幼児・児童～高齢者までを対象 ○於：エデンの園小ホール ○ペーパークロマトグラフィによる実験を実施。 ○エデンの園工芸室に作品を展示する他、地域文化祭にも出品。 ○作品を見せ合い、交流を図る。
7月～9月	夏期エデンの園科学教室 「テーマ：水・推進力」 第1回 <u>ポンポン蒸気船</u> 第2回 <u>浮沈子</u> 第3回 <u>紙飛行機</u>	○当団体メンバー、外部招聘講師、父兄及び地域ボランティア、学童保育指導員、エデンの園職員により運営 ○小学校高学年を対象 ○於：エデンの園工芸室 ○各自の発想を生かす指導とする。 ○浮沈子で浮力の不思議さを伝える。 ○飛行機の原理を学ぶ ○一部協力し合い工作しなければならない工程があり、コミュニケーション力の向上を積極的に図る。

		<p>○工具が使えない子供の指導に留意し、怪我をさせないように注意する。</p> <p>○エデンの園内で実演を行い、交流を図る。</p>
10月～12月	<p>秋期エデンの園科学教室 「テーマ：圧力」</p> <p>第1回 <u>マグデブルクの半球</u></p> <p>第2回 <u>減圧の体験、液状化現象</u></p>	<p>○当団体メンバー、外部招聘講師、父兄及び地域ボランティア、学童保育指導員、エデンの園職員により運営</p> <p>○児童を対象。但し、父兄の助力が必要</p> <p>○於：エデンの園工芸室</p> <p>○マグデブルクの半球は、学校で習ったものが本当なのかという興味ある演示を見せ、体験学習をさせるために企画。</p> <p>○減圧の体験は、ビニール製の布団袋に入り掃除機で減圧する事によりどのような事がわかったかと言う体感実験である。</p> <p>○社会問題になった地震による液状化現象の簡易模型を使って再現実験をする。又建築物に筋交いの重要性を理解させる為に模型を製作し体験させる。</p> <p>○感想を発表させ、理解度を把握するとともに交流を図る。</p>
1月～3月	<p>冬期期エデンの園科学教室 「テーマ：紙」</p> <p>第1回 <u>二色サイコロ</u></p> <p>第2回 <u>折り返しカード</u></p> <p>第3回 <u>変化する絵</u></p>	<p>○当団体メンバー、外部招聘講師、父兄及び地域ボランティア、学童保育指導員、エデンの園職員により運営</p> <p>○幼児・児童を対象</p> <p>○於：エデンの園小ホール</p> <p>○二色サイコロは、立方体に組むのに工夫しなければならず、知育に役立つ。</p> <p>○画用紙を工作し、デザインで変化を楽しむ学習をして貰う。</p> <p>○マジックの要素がある簡単工作ながら、原理は高度で、学びに適している。</p> <p>○作品発表会を実施し、交流を図る。</p>

※各季末には成果発表の時間を設け、児童が何を学び、作り、楽しみ、高齢者との交流で何を学んだのか

発表して貰います。また高齢者には新しい遊びなどを紹介してもらい、更なる交流を図ります。

4. 事業に取り組む上での達成目標を記載してください。

※事業目標は、できるだけ数値などを用いて、具体的に記載してください。

○達成目標

①科学教室開催回数：年10回

②児童参加者数：延べ200名以上

③科学が好き、または興味をもった子供達の数：延べ140名以上（参加者の7割）
（アンケートや発表会での把握による）

5. 助成金終了後、どのような活動に取り組むのかを記載してください。

○平成26年度以降、規模の大小にとらわれず活動は継続していきたいと考えています。

運営側はボランティアであり、材料費等の実費が現状で抑制出来れば、実施回数や参加者を減少させることなく開催し続けることが可能と思います。そのためにも、広報に努め、松戸市内外の企業等からの活動支援をいただければと考えます。

また、市内の学校、公民館、施設での開催に向けた活動も発展させていきたいと考えております。

○前項の目的達成に向け、様々な方法で、この活動を周知できる体制を整えたいと思っています。

(第6条関係)

事業の予算計画書

【収入】

申請者	(自己資金)	金額	積算内訳
	参加費 寄付	60,000円 40,000円	@300円*20人*10回分
	自己資金合計(a)	100,000円	
市	助成金申請額(b)	100,000円	
	収入合計(c)(a+b)	200,000円	

【助成金申請額(b)チェック項目】

1. 対象となる経費(d)欄の90%以内
2. 1事業あたり10万円以内

【支出】

交付対象経費	項目	金額	積算内訳
	講師謝金		50,000円
消耗品代		10,000円	教材パンフレットの印刷
消耗品代 工作材の加工及び材料費		60,000円	@300円*20人*10回分
賃借料(プロジェクター等)		20,000円	
イベント保険料		20,000円	@100円*20人*10回分
通信費		10,000円	
対象となる経費合計額(d)		170,000円	
その他	工具費	20,000円	
	保管費	10,000円	保管コンテナ
	その他経費合計額(e)	30,000円	
	事業費(f)(d+e)	200,000円	

※ 対象となる経費、対象とならない経費については、募集要項を参考にして下さい。